

手紙

荒川区立峡田小学校 五年 堀内 まほろ

拝啓 柳田邦男様

私が大好きな絵本は「バムとケロの寒い朝」です。寒い冬の朝、犬のバムとかえるのケロは池の中で凍り付いているあひるのかいちゃんを見つけます。二人はかいちゃんを助けて家に連れ帰り、お風呂に入れて暖めてあげたり楽しく遊んであげたりしますが、かいちゃんはいつの間に逃げ出して、もどおりまた池の中で凍り付いていた、というお話です。

この絵本には、読むたびにその絵の中に発見があつて、楽しくて一ページ一ページをじっくり見ていたくなります。葉っぱの陰に小さなかたつむりがいたり、おもちゃの車に小さな犬が乗っていることも一回読んだだけでは見つけられませんでした。かいちゃんは夜遅くまで星を見ていて池といっしょに凍り付いてしまったのですが、何度目に読んだ時か、表紙のはじっこに「ちゅうい！さむいひのよるはいけのなかででんたいかんそくをしないでね。」と書いてある小さな看板をじっと見ているかいちゃんを発見したときには笑ってしまいました。かいちゃんは危険を承知で寒い夜の池に浮かんで天体観測をしていたのです。

普通、絵本の見返しは白いだけなのに、この本の前の見返しは、かいちゃんが池に浮かんで星を見ている絵で、後ろの見返しではかちかちに凍ったかいちゃんにつららまで下がっています。その星空の中に、バムの足型に並んだ星座を発見。この本のどんなところも油断して見

過ぎすわけにはいきません。

バムやケロは服や持ち物も自分の姿に似せたデザインで、色使いや形もかわいくて見ていて楽しくなります。絵のすみで小さな動物たちが、お話には関係の無いところで浮き輪をふくらませていたり、ジュースを飲んでいたりしているのを見つけるのも楽しみです。

柳田さんにもこの本を何度も読んでみることをお勧めします。そのたびに発見があつて、見つけられると、うれしくなると思います。

かしこ